

授業の質を高め、生徒の意欲に火を付ける

伝統校では、学校の指導方針の下で、新課程にどのように対応していくのだろうか。県を代表する伝統校である3校の先生方4人に話を聞いた。

大学入試に偏らない 全人教育の伝統を継続

編集部 新課程でのカリキュラム改編の前に、その土台となる学校の指導方針について教えてください。

庄司 秋田高校が目指しているのは「究極の文武両道」です。平日は課外補習を行わず、部活動や生徒会活動に取り組める環境を整えています。そして、部活動や課外活動、学校行事、保健体育や家庭科など入試科目以外の授業にも全力を傾けるよう意識付けをしています。3年間の高校生活を通して、自分に限界をつくらず、何事にも全力で取り組める

姿勢を身に付け、社会に貢献できる人材を育てたいと考えています。

臼井 土浦第一高校では「自主・協同・責任」を校訓として、大学入試だけにとられない全人教育を目指しています。入学当初から「一高スタイル」として、学習や課外活動に関して主体的・継続的・積極的な態度を涵養し、規律と責任のある生活態度を心掛けさせています。将来の職業として弁護士や医師、研究者などを志望する生徒が多いのですが、入試に特化した指導はせず、平日は部活動の時間を確保し、学習と部活動の両立に取り組ませています。

小坂 熊本高校では、建学以来「士



秋田県立秋田高校

庄司 強 Shoji Tsuyoshi

教務主任。同校に赴任して13年目。2009年度まで進路指導主事を務める。担当教科は数学。

君子の養成」を目標に掲げてきました。2002年に制定したSIでは「深い自己理解のもと、個性を生かし、社会に積極的に関わっていく、自立した個人」と表現しています。

参加校

秋田県立秋田高校

全日制／普通科・理数科／共学／1学年約315人／10年度の進路実績（現浪計）…国公立大は、北海道大14人、東北大59人、東京大16人、京都大4人など計248人が合格。私立大は慶應義塾大、早稲田大などに延べ388人が合格。

茨城県立土浦第一高校

全日制・定時制／普通科／共学／1学年約320人／10年度の進路実績（現浪計）…国公立大は、東北大15人、筑波大42人、東京大24人、一橋大11人など計185人が合格。私立大は上智大、慶應義塾大、東京理科大、早稲田大などに延べ684人が合格。

熊本県立熊本高校

全日制／普通科／共学／1学年約400人／10年度の進路実績（現浪計）…国公立大は、東京大14人、京都大9人、大阪大8人、九州大54人など計306人が合格。私立大は慶應義塾大、早稲田大、同志社大、立命館大などに延べ382人が合格。

本校を訪問した他校の先生から「生徒が大人びて見える」とうかがうことがよくありますが、それは生徒の主体性を生かした活動を心掛けていくからだと捉えています。学習だけでなく、部活動や学校行事にも積極的に取り組ませることによって得られる成長が、結果的に大学入試にもつながると考えています。



秋田県立秋田高校

小松弘樹

Komatsu Hiroki

進路指導主事。同校に赴任して3年目。担当教科は地理。

時間をかけても 学力が高まるわけではない

編集部 各校とも大学入試に特化しない全人教育を目指されています。目標を達成する上で課題に感じられていることはありますか。

小松 家庭学習時間の確保は大きな課題です。特に秋田県の公立高校の学区が全県一区になってから、通学に時間を取られ、学習と部活動の両立に悩む生徒が増えました。卒業生は「部活動の経験があったから勉強も頑張れた」「部活動の達成感があるから受験に向かえる」と自らの体

験を後輩に語りますが、在校生にはそうした実感がまだないので不安を抱いています。自分の限界を超えた先に成長があることを、我々教師がきちんと伝えなければなりません。

白井 学習と部活動の両立は、本校でも課題の一つです。知的好奇心の強い生徒は部活動にも積極的ですが、1年生から予習・復習にきちんと取り組まなければ授業についてられません。そのため、1、2年生には宿題以外の家庭学習に3時間は取り組んでほしいと考えています。が、実際は2時間にも達していません。



茨城県立土浦第一高校

白井健司

Usui Kenji

進路指導副主任。同校に赴任して10年目。担当教科は生物。

ん。部活動が学習により効果をもたらすことは事実です。しかし、一定の時間の中で全力で取り組ませることも大切です。本校では、完全下校時刻を設定するなどして、部活動の時間にある程度歯止めをかけています。

小坂 時間をかければ学力が高まるというわけではありません。特に、補習はドリル学習に終始する危険性があります。ドリル学習は公式を覚えて例題や類題の数をこなすうちに入試問題も解けるようになるだろうという期待の下に行いますが、実際には思うような成果は得られません。学力が上がらない割に時間が取られることや、勉強させているから大丈夫だろうと教師が安心してしまふことなど、マイナス面の方が大きいと思います。

庄司 私も同感です。最終的には自分で学び、考える生徒を育てるのが教師の使命です。生徒自身に「なぜそれを勉強するのか」という動機がなければ、我々が求める真の学力の育成には結び付かないでしょう。



熊本県立熊本高校

小坂和海

Kosaka Kazumi

進路指導主事。同校に赴任して8年目。担当教科は数学。

教師の情熱的な語り口が 生徒の意欲に火を付ける

編集部 課外補習をせず、部活動の時間も確保するためには、授業でより高い学習効果を上げる必要があると思います。どのような工夫が考えられますか。

白井 生徒の学習意欲をいかに高めるかが重要だと思います。意欲が低いままであれば、いくら学習させても学力の伸びには限界があるのでないでしょうか。科目に関連した最新の話題をどんどん授業に取り入れて、生徒の知的好奇心を刺激する。



あるいは、将来の夢や志を育てるような話題を提供する、といった工夫が必要だ。

小坂 担当教科が好きで、魅力を感じ続けている教師の授業は、面白いですね。私の担当教科である数学

を例にすると、関数は一見複雑ですが、実は増えるか、減るか、変わらないかの三つしかありません。それがどのように変化するかを、人間は何百年にもわたり繰り返し考えてきました。抽象的な数学の世界にそうした人間の英知が凝縮されていることが間接的にも伝われば、生徒の知的好奇心は高まると思います。

白井 同感です。私が高校時代に初めて微積分を習った時、教師が歴史的な背景を踏まえて情熱的に話しているのを聞いて、「数学はこんなに魅力のある学問なのか」と感じたことを今でも覚えています。教師がその教科を愛しているという思いがにじみ出るような授業が、生徒に感動を与えるのではないのでしょうか。

教師が辛抱強く「待つ」指導

庄司 授業中に生徒自身が考える場面をつくることも大切です。授業時間に限られていることもあり、ともしれば教師は教え過ぎるきらいがあります。しかし、授業ですべてを教えることが不可能である以上、生徒が自主的に勉強に向かうよう、興

味・関心を高めていくことの方が重要です。そのためには、教師が辛抱強く「待つ」ことも必要です。例えば、授業の残り時間が5分になった時、結論はわざと言わずに宿題にして授業を終えるという手法も有効なものではないでしょうか。考える時間を与えることで学びの内容に関心が高まり、教師の問いかけに答えようとする生徒が出てくるはずですよ。

小松 私は、大学入試問題が生徒の学習意欲を高めるとも良い材料だと考えています。大学の研究内容を紹介して生徒の知的好奇心を刺激するだけでなく、入試問題の出題意図や解答のプロセスを授業で分析、解説することで、生徒は「問題を解けるようになりたい」という気持ちが強くなります。大学に進学したいと希望する生徒に対して、我々はその意欲に授業で応えなければなりません。「大学入試を利用して生徒を育てる」という発想も必要ではないのでしょうか。

教科書をきちんと読める生徒を育てる

編集部 新課程では数学・理科を中

心に学習内容が増えるため、今まで以上に授業の質を高める必要があると思います。新課程を機に授業をどう改善すればよいのでしょうか。

庄司 新課程で重視する力の一つに、文章読解力・表現力の向上があります。担当教科の数学では、解答を板書させると日本語を書かず数式の羅列で済ませる生徒がいたり、文章題の意味を正確に読み取れない生徒がいたりします。新課程を機に生徒による発表の機会を増やし、生徒の弱点である読解力や表現力を高めていきたいと考えています。

小松 書いたり発表したりするためには、教えられた知識に加え、自分の持っている知識を組み合わせて考え、解釈した上でアウトプットをしなければなりません。「自分はどう考える、なぜならば……」というように、アウトプットの機会を増やすことによって生徒の「考える」機会を増やすことが出来れば、必然的に授業の質の向上にもつながるのではないのでしょうか。

白井 生徒に考えさせるためには、教師が投げかける「問い」が重要です。一つの答えを導き出すための問

いではなく、広く深く考えさせるために問いかけの質を高めなければなりません。

小坂 教科書をきちんと読める生徒を育てることも重要になると思います。数学では「整数の性質」という単元が新たに加わりませんが、これまで誰も教えたことのない単元ということもあり、新課程の教科書ではスモールステップにして、生徒が無理解できるような丁寧な解説が書かれているようです。これまででは、こうした説明を飛ばして公式や定義だけを教え、例題に取り組みせるような教科書が好まれていました。新課程では、導入部分で単元を学ぶ意味が述べてあったり、理論を丁寧に積み上げ定義を導いたりというように、きちんと読み込むことで、数学の原理や魅力が伝わる教科書が増えるかもしれません。我々が良い教科書を選ぶことが前提にはなりませんが、生徒にしっかりと教科書を読み込ませることによって、教科書の魅力に気付かせることが出来ると期待しています。

教える内容を精選し、授業ですべてを教えきらない

編集部 考えさせたり発表させたりする機会を増やすと、授業の進度が遅くなるのではないのでしょうか。

小松 確かに進度は遅くなりますが、それでも考えさせることは、生徒の学びの質を高めるために必要です。教材を精選したり授業にメリハリをつけたりすることで、時間の捻出は可能はずです。生徒は「ここは授業で習っていない」と思うかもしれませんが、授業ですべてを教えずに済ませるのではなく、生徒に自分で調べて学ぶための糸口を与え、深く考える楽しさや面白さを経験させる。それが私たち教師の目指すべき授業であり、「力の付く授業」と考えます。

白井 私も新課程では授業で教える内容を精選する必要があると感じています。担当科目の生物は教える内容が幅広いので難しいのですが、遺伝などは数学の確率の知識を応用して幅広い問題に対応することが出来

そうです。ただ一方で、化学や生物では具体的な化学反応や生物の機能をたくさん知っているほど、法則が理解しやすくなるので、考えるための材料を多く与えることも必要です。要点を押さえて効率よく教える部分と、材料を与える部分のバランスをいかに取るかが、授業の質を高める鍵になります。

学校目標の下に 教務、進路、各教科が連携を

編集部 新課程に向けたカリキュラムの改編は教務部主体で進められると思いますが、進路指導部や各教科との連携はどう行っていくのでしょうか。

小坂 本校では教務と進路指導、各教科による教育課程委員会において、教務が中心となってカリキュラ

ム全体の構築に責任を負う体制をとっています。難しいのは各教科をどのように調整していくのかにあり、教務主任のリーダーシップが重要になるでしょう。

小松 本校も教務を中心に学校全体で考えていくことを基本スタンスにしていますが、その際、忘れてはならないのは学校目標です。カリキュラムはあくまで学校目標を具現化するためのものであり、すべてはそこを起点にして考えるべきではないでしょうか。学校目標と生徒の進路実現を教務、進路、各教科がしっかりと踏まえて、連携を取りながらバランスの良いカリキュラムを構築していきたいと思っています。

編集部 本日はありがとうございます。

新課程で 授業の質を 高める視点

- ・ 教える内容を精選し、狙いに合った教材を選ぶ
- ・ 生徒のアウトプットの機会を増やす
- ・ 生徒に深く考えさせる「問い」を投げかける
- ・ 教科書をしっかりと読める生徒を育てる
- ・ 授業ですべてを教えきらない